

令和4年度 第5号 令和4年11月9日

鶴 鳥 星

阿久根市立鶴川内中学校

校 訓

スクールコンセプト

ともに夢と希望を育む鶴川内中

協 自 自
調 律 主

一 校 一 風

育てよう花と心と大きな夢を

校長室の窓から ツルの夫婦愛，ひな鳥への愛

校長 井久保 康彦

季節が晩秋から初冬へと移り変わり、いよいよ今年も残すところ一月あまりとなりました。「終わりよければすべてよし」としっかりと2学期を締めくくることができるよう意識しながら生活させたいものです。

さて、ツル越冬地の出水平野に昨季より6日早く、10月12日に今季初めてとなるナベヅル1羽が飛来したと報道されました。毎年、ツルが飛来する時期になると、ツルの保護監視員であった又野末春さんが書かれたエッセーを思い出します。

昭和48年の2月ごろだったといいます。餌場の近くで1羽の雌のナベヅルがけたたましい鳴き声で上空を旋回していたというのです。かけつけてみると、そのペアであろう雄ツルが羽を怪我して飛ぶことができずもがいていたそうです。傷の手当てをするために保護舎へつれていく途中も上空を旋回する雌ツルは雄ツルと鳴き合っていたそうです。

3月に入りツルたちもシベリアへ帰る時期が来てほとんどのツルが帰って行きました。しかし、1羽だけ残っているナベヅルがいました。それは、なんと怪我を負って保護したツルの相ヅルであったというのです。4月に入っても帰ろうとせず、保護舎の中の雄ツルと悲しげに鳴き合っていたそうです。5月に入り、暖かくなってきました。一緒に帰るのを断念したのか、とうとう雌ツルはたった1羽で飛び立って行きました。又野さんは、1羽でシベリアへ帰り着いたであろうかと大変心配したそうです。

そして、また冬になり、ツルの第一陣がやってきました。第一陣の中に、保護舎の上下で鳴き合うツルがいました。怪我を負った雄ツルを最後まで見舞い、けなげにもたった1羽でシベリアへ帰っていったあの相ヅルの雌ツルであったというのです。居ても立ってもいられない心境だった雌ツルは、一日千秋の思いで第一陣の出発を待ちわびていたことでしょう。また、保護舎に残った雄ツルも冬になれば相ヅルが再飛来してくれることを信じていたのでしょう。秘められたこの強い夫婦愛にツル保護に携わって30年を過ぎた又野さんは、こんなに感動したことはなかったと書いています。雄ツルの怪我也回復したので、雌ツルの元へ帰したそうです。夫婦は仲良く冬を過ごし、仲間と共にシベリアへ帰って行きました。

驚くことに、次のシーズンあの夫婦ツルが2羽の子ヅルを連れてやってきたのです。雄ツルに付けてあった標識ですぐわかったそうです。又野さんはこのことにも感動しています。親ヅルは餌をついばむ時も必ず1羽は周囲を警戒していて、餌場に侵入してくるものがあると威嚇する鳴き声を上げ、夫婦で子供を守っているそうです。また、子を思う親の情愛が極めて深いことを表す表現に「焼け野のキギス、夜のツル」という言葉があります。

「キギス」とは鳥の「キジ」のことであり、キジは、自分の巣のある野を火事で焼かれても危険を顧みず巣に戻り、自分は犠牲になってもひな鳥を救おうと羽の下に隠すそうです。また、霜が降り、凍てつくような寒い夜に、ツルはひな鳥を羽でおおって暖めるというのです。「万物の霊長」と言われる私たち人間ですが、それとは逆に鳥やその他の動物から学ぶことも多いのではないのでしょうか。

主な行事予定

月	日	曜	11月～12月前半の主な行事
	9	水	生徒会引継式
	11	金	SC来校(午前)
11	18	金	県指定「キャリア教育」推進協力校研究公開
	19	土	県PTA活動委囀研究公開(発表)
	25	金	3年PTA・進路説明会 部活動停止(~1)
	30	水	期末テスト(~12/2) 英検 IBA
12	2	金	PTA 学習会
	5	月	3年幼児と触れ合う活動
	10	土	校内持久走大会 1,2年 PTA
	11	日	PTA 門松づくり
	13	火	市中学生会議
	14	水	学力検査(~15)
	23	金	終業式

受賞しました！おめでとうございます！

■ 市児童生徒理科作品審査会
入選 若松 夢空(2)

■ 校内手帳甲子園

● 手帳活用部門

若松 夢空(2) 宮前凧綺夢(2)
田原ほのか(3)

● 表紙デザイン部門

青木想玖星(3) 山下和太瑠(3)



努力目標

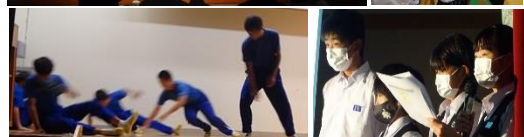
生徒会活動に進んで取り組もう。

一事徹底

手を休めない作業の徹底をしよう。

令和4年度文化祭

10月30日(日)、文化祭がありました。
テーマ「思高～Think Move Grow～」



体育大会が縦のつながりを意識した取組で、文化祭は横のつながりを意識した取組です。日頃の学習や活動の成果を発表し、美しいものや地域や我が国の伝統文化に触れ、自他の個性を認め、互いに高め合う。そして、集団や社会の形成者として新たな文化の創造に寄与しようとする態度や自己の成長を振り返り、自己を一層慎重させようとする態度を養うことを目的とする文化祭。劇、発表、合同合唱、弁論、英語暗唱、カスミクラブ発表、生徒会によるオープニング、エンディング、各教科の作品展示、校内手帳甲子園が行われました。



全国学力・学習状況調査結果

中3を対象に実施され、全国平均の結果が公表されました。

	本校	県平均	県との比較	全国平均	全国との比較
国語	88.0	69.0	+19.0	69.0	+19.0
数学	62.0	47.0	+15.0	51.4	+10.6
理科	62.0	49.0	+13.0	49.3	+12.7

全国約 891,820 人、県約 12,583 人での結果です。経年比較からも生徒の力がついてきていることがわかります。各項目で分析を行った結果、問題場面における考察の対象や話合いの話題・方向を的確に捉え、読み取れるようにするとともに、捉えたことを言葉や式を用いて、適切に表現することについても今後さらに指導していきます。

★文化祭を終えて(「Be the first penguin.」(最初のペンギンになれ))

ペンギン世界では、海の中にエサを取りに行くとき、まず1匹のペンギンが果敢に飛び込む。1匹目は、海中に敵がいるかどうかわからないが危険をかえりみず飛び込む勇気のあるペンギンだ。もちろん、集団で行動しているペンギンにとっては防衛的に集団で飛び込むことが実際だが、その一匹目がファーストペンギン。言うなれば、ファーストペンギンはパイオニア、あるいはリスクテイカーともいえる。うまく行けばエサをたっぷり取れるが、うまく行かなければサメにやられてしまうだろう。

The Last Lecture (最後の授業) で有名になったカーネギーメロン大学の教授、ランディ・パウシュ先生は、クラスに「The First Penguin Award」という賞を設けていた。毎年、何か大きなこと、新しいことに挑戦してもっとも大きな失敗をした生徒にこの賞を贈っていた。また、この賞を設けている学校は他にもたくさんあるそうだ。新しいことをするには勇気がある。失敗する可能性が高いので怖いからだ。初めてやったことはほぼ失敗することが多い。初めてのことはきみも失敗の経験があるはずだ。自転車に乗れるようになったときやスポーツで何か上手になるときもそうだろう。

しかし、その恐怖を乗り越えてチャレンジしなければ、新しい価値は生み出せない。あえて危険な世界に飛び込むファーストペンギンはとても勇気があり、讃えられるべき存在として賞賛の意を込めて用いられることがある。

だが、最初に飛び込むペンギンは自分が得をしたいというより、周りの思いを大事にし、身近な人を守りたいと強く願っているからのように思う。見守っている人がいて、後ろに続く人のことを想っているのではないだろうか。

そして、もう一つ。ファーストペンギンになるためには、コンフォートゾーン(自分にとって居心地のいい世界)から出なければならない。安全圏にいては海に飛び込めない。誰も、住み慣れた予測可能な場所にいることを好む。なぜなら、そこにいれば安心だからだ。だが、ずっとそこにいても、周りの景色は変わらない。もし、別の景色が見たければ、一歩足を踏み出す必要がある。時にはリスクを取らなければならない。いつもとはちょっと違う選択をし、違う行動をとる。そして、恐れず一歩を踏み出せる。そんな場面がたくさん輝いた文化祭。これからもきみ自身の人生のファーストペンギンであってほしい。

不審者対策教室

11月5日(金)に、緊急避難訓練、不審者対策を行いました。



自治体で行われた地震防災訓練アプリを使用した緊急避難訓練を行いました。

また、警察署の方を迎え、不審者の対応について、距離をとることや、「いかのおすし」の基本を学びました。遭った場合、迷わず、通報ください。